

報道関係各位

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長兼 COO 福島 保
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

高まるしつけや教育への関心 ～4割の母親が「自分が犠牲になるのは仕方ない」～

「第3回 子育て生活基本調査(幼児版)」(幼稚園児・保育園児の保護者対象)の結果速報

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)のシンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」は、2008年9月～10月、全国の幼稚園児・保育園児をもつ保護者6,131名(このうち5,884名の母親が分析対象)に、子育ての実態、しつけや教育に関する意識・実態をとらえる目的で、「第3回 子育て生活基本調査(幼児版)」を行いました。本速報は首都圏の母親について2003年からの5年間の変化をまとめたものです。

2003年からの5年間で、母親の子育て実態、子どものしつけや教育に関する意識について、以下のような変化がみられました。

1. しつけや教育に関心の高い母親が増えている。

- 家庭での教育方針をたずねたところ、70%が「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしつけている」(56.4%→70.7%)と、25%が「小学校入学までに読み書きができるよう心がけている」(20.2%→25.3%)と回答した(複数回答形式で選択した比率)。2003年と比べると、多くの項目で選択率が高まった。
- 家庭で子どもと一緒にすることでは、「ひらがなやカタカナの学習をする」(44.7%→51.1%)や「数や算数の学習をする」(31.2%→37.3%)が増加(ほとんど毎日)から「週に1～2日」までの合計)。
- 習い事をしている割合は2003年から増加し、6割を超えた(58.8%→62.0%)。「スポーツクラブ・体操教室」(11.9%→17.9%)が増加する一方で、「英会話などの語学教室や個人レッスン」(13.0%→9.5%)はわずかに減少した。

2. 自分の生き方より子育てを優先する母親が増えている。

- 子育てに関する意識では、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」が減少(63.8%→56.7%)し、「子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない」が増加(34.5%→41.8%)した。

3. 働く母親にとって子育てが大変になっている。

- 「自分は子育てに向いている」と回答したのは、専業主婦でおおよそ半数(46.5%→48.4%)だが、常勤の母親は4割(45.6%→40.8%)である。
- 配偶者との関係について常勤の母親の回答をみると、「夫婦でお互いの関心事について話し合う」割合が低下した(65.5%→58.0%、「よく話し合う」と「まあ話し合う」の合計)。専業主婦(73.1%→75.5%)と比べると、17.5ポイントの差が生じている。

近年、子どもの生活習慣やしつけにおける家庭の役割が重視され、母親自身の子育てに対する意識も高まっています。子どものしつけや教育に関心をもち、積極的に関わっていくことは望ましいことではあるものの、保護者のかかわり方によって子どもの自立のさまたげとなる可能性にも留意する必要があります。また常勤の母親にとって子育てが大変になっており、育児と仕事の両立が難しい状況が生まれているようです。行政、企業、地域社会などにおいて個々の家庭の実情に応じた子育て支援を進めるために、環境・制度面の整備を検討する必要があると考えます。

このリリースに関するお問い合わせ先
株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR部(坂本、濱野、西沢、^{そごう}十河)
TEL 042-356-0657 FAX 042-356-7301

■ 調査概要

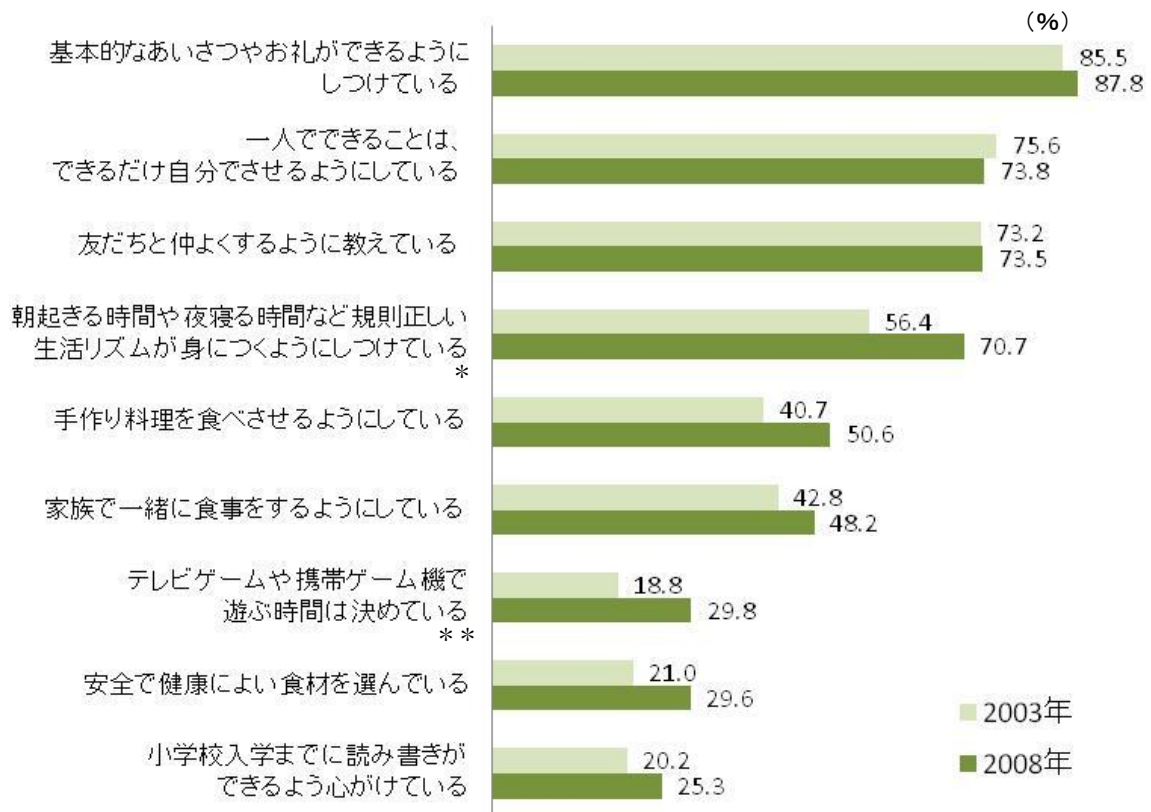
テーマ	幼稚園児・保育園児をもつ保護者の子育ての実態、しつけや教育に関する意識
時期	2008年9月～10月(第1回は1997年、第2回は2003年に実施)
調査方法	幼稚園・保育園通しによる家庭での自記式質問紙調査
調査地域	首都圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)、地方市部、地方郡部
調査対象	幼稚園児・保育園児(3歳～6歳)をもつ保護者 6,131名、うち 5,884名の母親を分析。 (配布数 8,238通、回収率 74.4%) *速報版では首都圏の母親(3,069名)を中心に分析を行った。

■ 特徴的な調査結果

① 家庭でのしつけや教育方針

「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしつけている」「手作り料理を食べさせるようにしている」「小学校入学までに読み書きができるよう心がけている」の選択率が5年間で、それぞれ14.3ポイント、9.9ポイント、5.1ポイント増加している。基本的な生活習慣をはじめ、しつけや子どもの教育に対する意識が高まっている。

図1 家庭でのしつけや教育方針(経年比較)



注1 複数回答。「その他」を含む19項目のうち、9項目を図示した。

注2 *は、2003年調査では「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」。

注3 **は、2003年調査では「テレビゲームで遊ぶ時間は決めている」。

② 家庭で子どもと一緒にすること

「ひらがなやカタカナの学習をする」を週に1日以上している割合(「ほとんど毎日」から「週に1~2日」の合計)は44.7%から51.1%へ、「数や算数の学習をする」は31.2%から37.3%に増加している。

図2 ひらがなやカタカナの学習をする(経年比較)

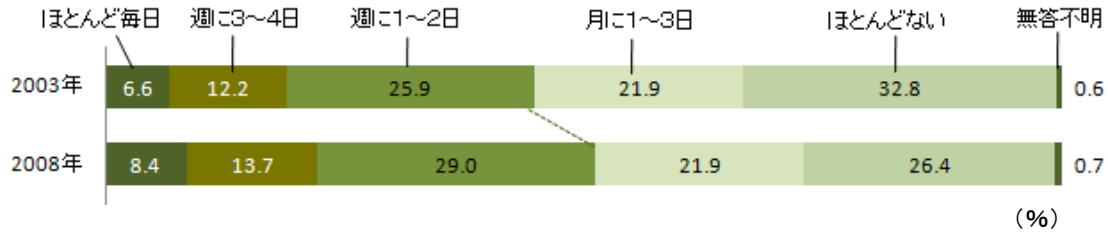
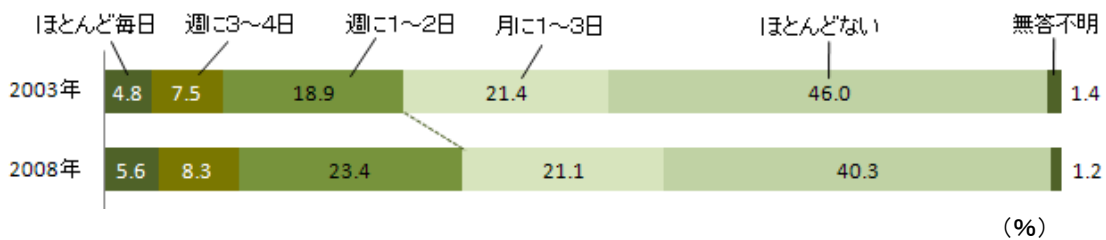


図3 数や算数の学習をする(経年比較)



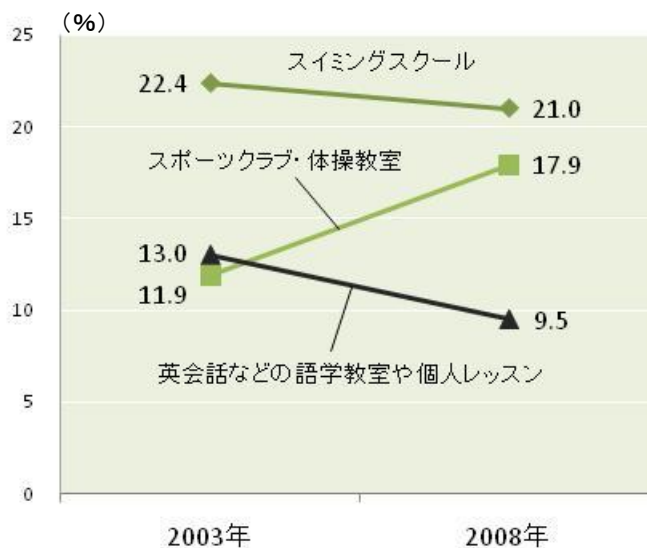
③ 習い事

習い事をしている割合は62.0%で、2003年より3.2ポイント増加した。習い事の内容をみると、「スポーツクラブ・体操教室」の6.0ポイント増加(11.9%→17.9%)、「英会話などの語学教室や個人レッスン」の3.5ポイント減少(13.0%→9.5%)などの変化が目立った。

図4 習い事をしている割合(経年比較)



図5 習い事の内容(経年比較)



注1 複数回答。

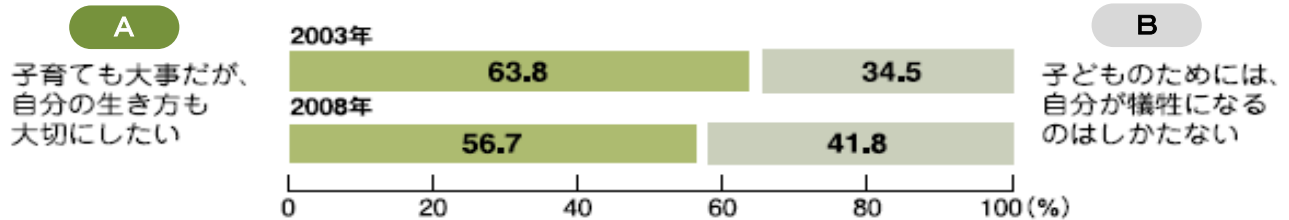
注2 現在、習い事をしていないと回答した母親を含めたすべての母親の回答を母数としている。

注3 「その他」を含む17項目のうち、3項目を図示した。

④ 子育てやしつけに関する意識

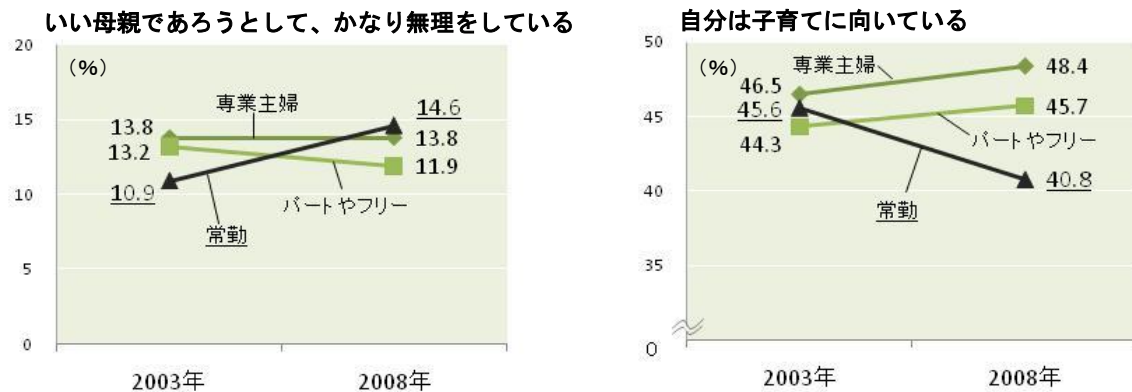
この5年間で、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と回答した母親が7.1ポイント減少する一方で、「子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない」が7.3ポイント増加し、4割を超えた。さらに、意識の違いを就業状況別にみると、常勤の母親は「いい母親であろうとして、かなり無理をしている」の回答が増加した。また、「自分は子育てに向いている」の回答は減少し、専業主婦と7.6ポイントの差が開いている。

図6 子育てやしつけに関する意識(経年比較)



注 AかBのいずれか一方を選択。無答不明があるため、AとBを合計しても100%にならない。

図7 子育てやしつけに関する意識(経年比較・母親就業状況別)



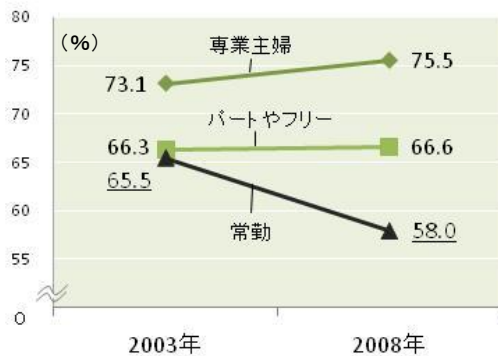
注 AかBのいずれか一方を選択する設問で、上記を選択した比率。

⑤ 配偶者との関係

就業状況別に配偶者との関係をみると、常勤の母親は配偶者と話し合う機会が減少し、配偶者から理解されているという認識が低下している。専業主婦との差が、2003年と比べて拡大した。

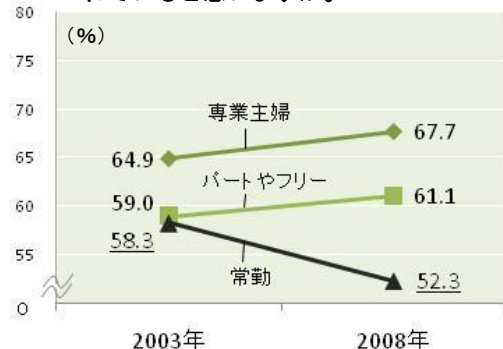
図8 配偶者との関係(経年比較・母親就業状況別)

1) ふだんからご夫婦でお互いの関心事について話し合うことがありますか。



注 「よく話し合う」+「まあ話し合う」の%。

2) あなたの配偶者は、あなたが関心をもっていることや悩みなど「現在のあなた自身」を理解してくれていると思いますか。



注 「よく理解している」+「まあ理解している」の%。

< Benesse 教育研究開発センターの活動 / Benesse 教育情報サイトでの情報提供について >

Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々の議論の輪を広げていきたいと考えています。また、Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。